

**高齢・超高齢透析患者の透析量を再考する～Kt/V～**

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック 大村腎クリニック

○河野史堯 矢野利幸 高木伴幸 澤瀬健次 橋口純一郎 前川明洋 原田孝司 船越 哲

**【背景】**

当院では、臨床工学技士が独自の『透析効率評価シート』を用いて、 $KT/V > 1.4$  を目指す取り組みを実施しているが、目標達成率は6割程度にとどまっている。しかし、この取り組みは全透析患者が対象であり、高齢者も一律に評価してよいかの検討が必要と考える。一方、近年では高齢でフレイルを有する血液透析患者において、透析時間の延長など積極的な透析スケジュールにはエビデンスがないとの報告などがある。

**【目的】**

当院における、全年齢層で  $KT/V > 1.4$  を目指す妥当性について検討する。

**【対象・方法】**

透析患者 512 名を、非高齢群(65 歳未満)159 名、前期高齢群(65 歳～74 歳)183 名、後期高齢群(75 歳～84 歳)118 名、超高齢群(85 歳以上)52 名の 4 群に分類し、 $KT/V$  や生化学データ、栄養状態を比較した。

**【結果】**

加齢と共に  $Cr$  は 11.5 mg/dl～6.9 mg/dl と有意に低下していた( $P < 0.01$ )。非高齢群と超高齢群では、透析時間(4.1、3.4)、血流量(230.4ml/min、189.1ml/min)、GNRI(90.5、86.8)は超高齢群で有意に低値( $P < 0.01$ )であった。一方、 $KT/V$ (1.44、1.38)には年齢層による差は認められなかった。

**【考察】**

今回、非高齢患者と超高齢透析患者を比較した場合、低血流量・短時間透析であっても  $KT/V$  に有意な差異が観察されず、この要因としては加齢による基礎代謝の低下などが推測された。つまり現行の透析条件が超高齢透析患者にとって妥当である可能性があり、今後は、高齢者への尊厳を重視しながら、年齢に応じた慎重な透析効率評価を検討したい。